

令和2年度

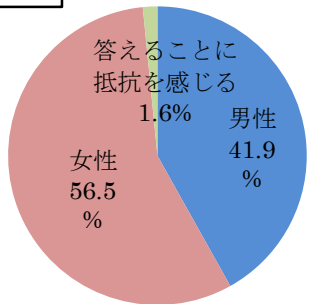
男女共同参画に関する町民意識調査

結果概要

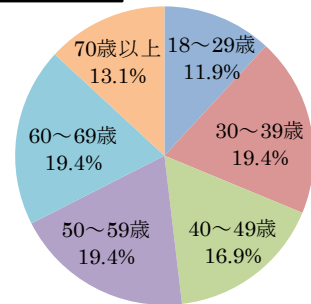
調査概要

- 1 調査対象者 町内在住18歳以上の男女1,000人
(18～29歳、30代、40代、50代、60代以上 男女各100人ずつ)
- 2 調査期間 令和3年1月18日～令和3年2月5日
- 3 調査方法 住民基本台帳より、年齢別に無作為に抽出し郵便にて配布・回収
- 4 回収状況 有効回収数 382人 回収率 38.2% (前回 38.3%)
男性 160人 女性 216人

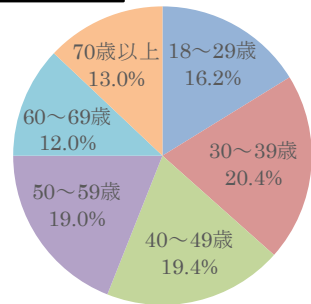
性別



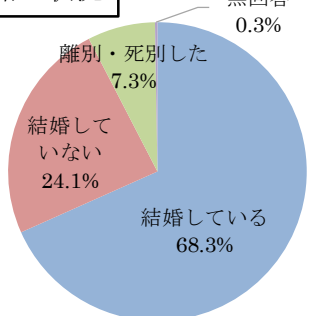
年齢(男性)



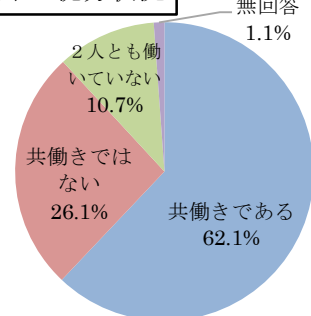
年齢(女性)



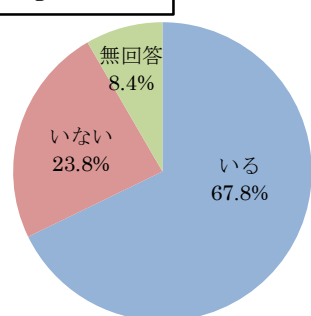
結婚の状況



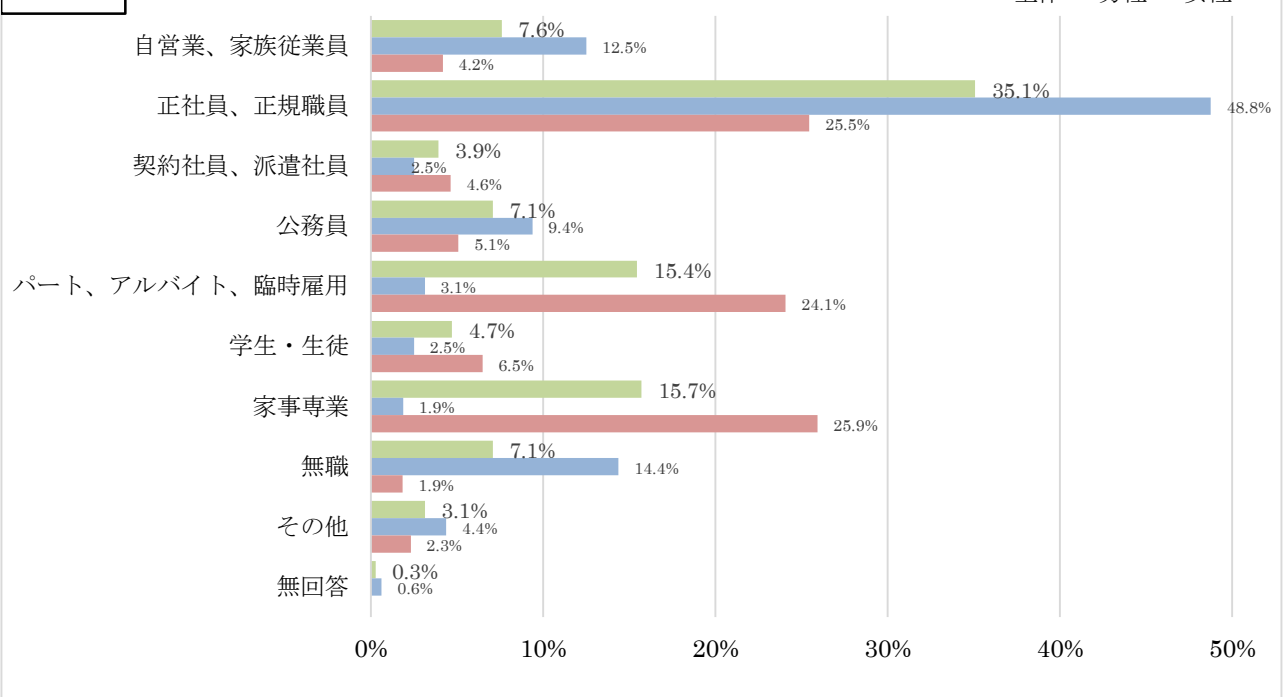
夫婦の就労状況



子どもについて



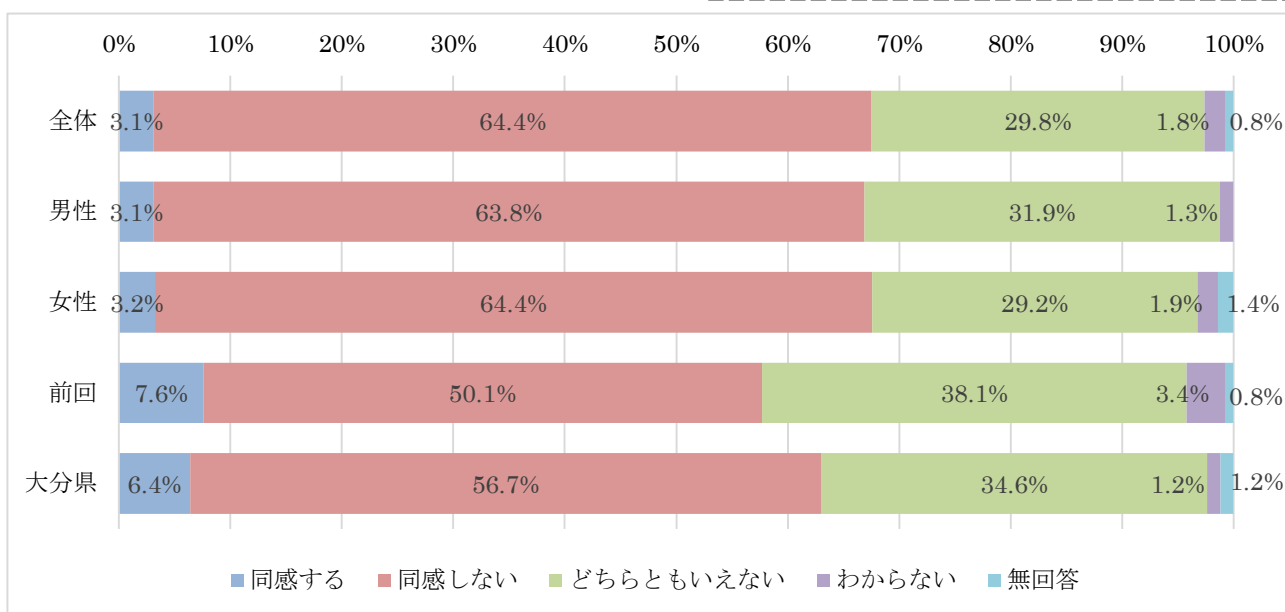
職業



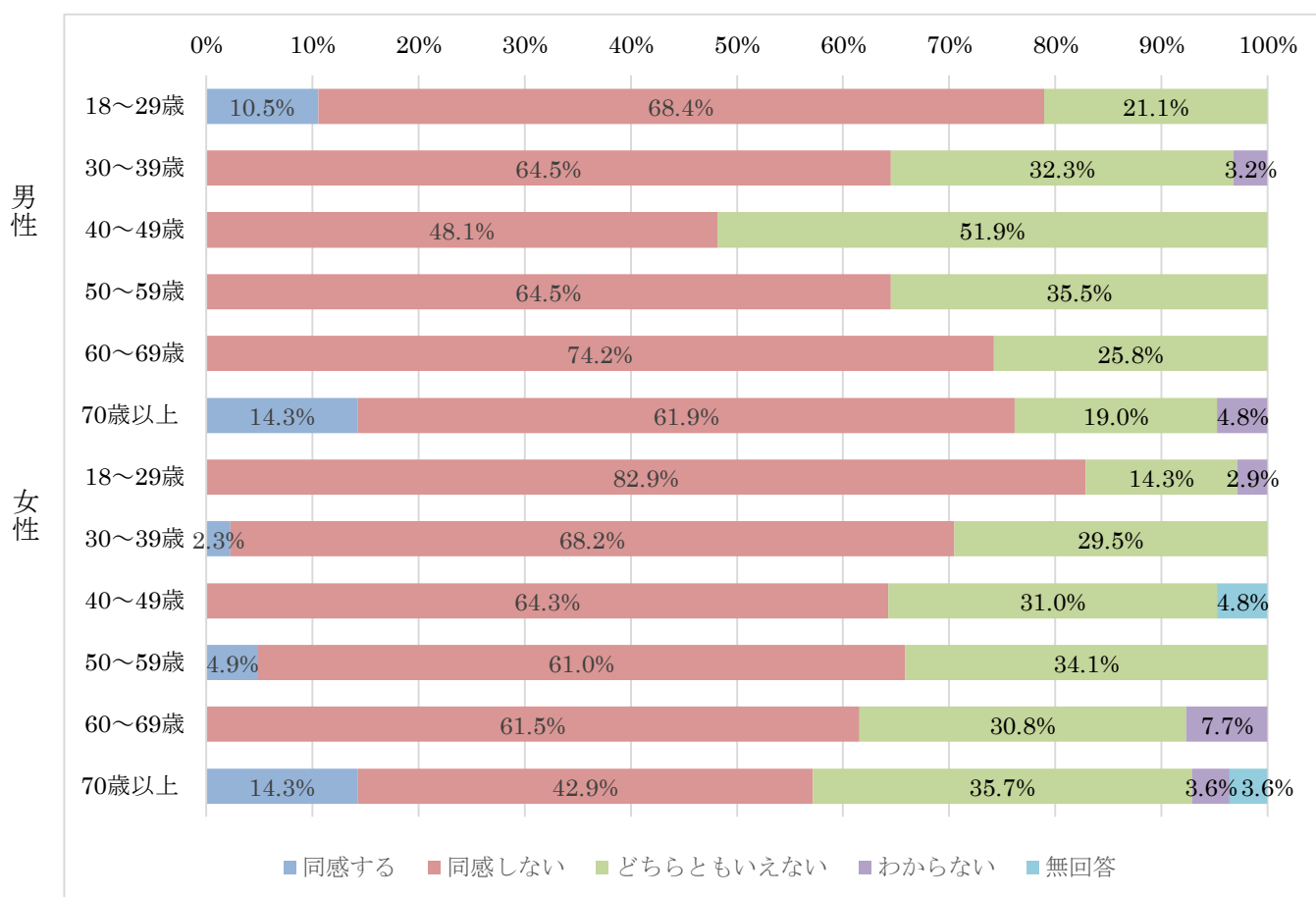
1 男女の平等意識について

●男は仕事、女は家庭という考え方について

「同感しない」が前回より 14.3 ポイント高い



●男は仕事、女は家庭という考え方について（性・年齢別）

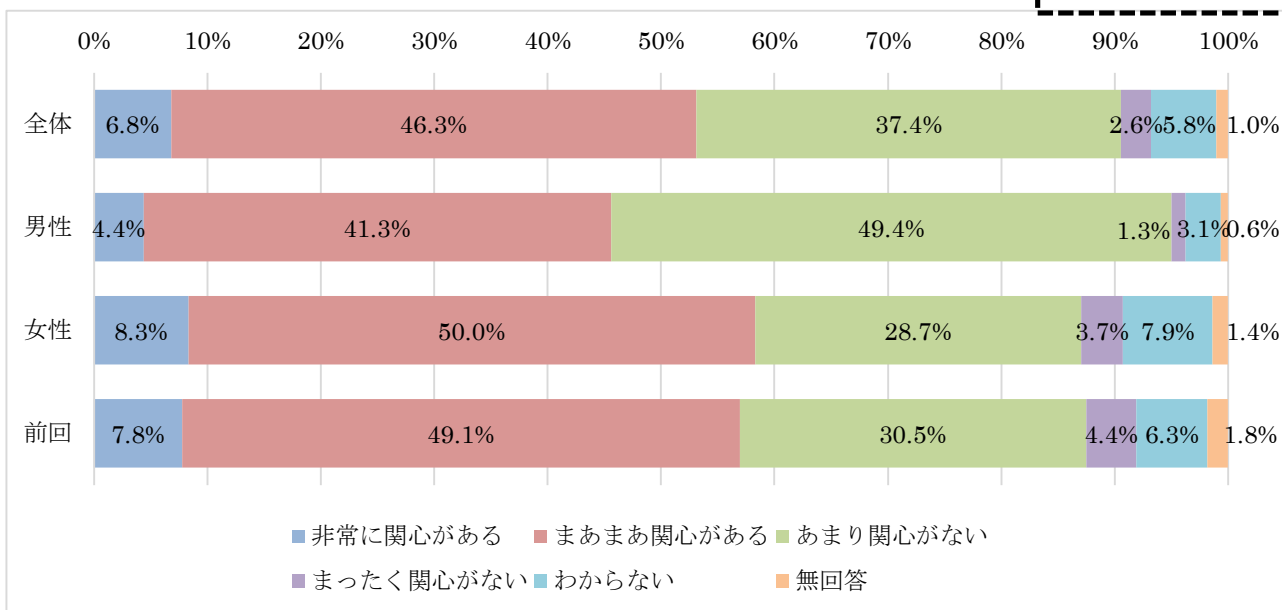


○全体では「同感しない」が 64.4% で最も高く、前回より 14.3 ポイント高い。

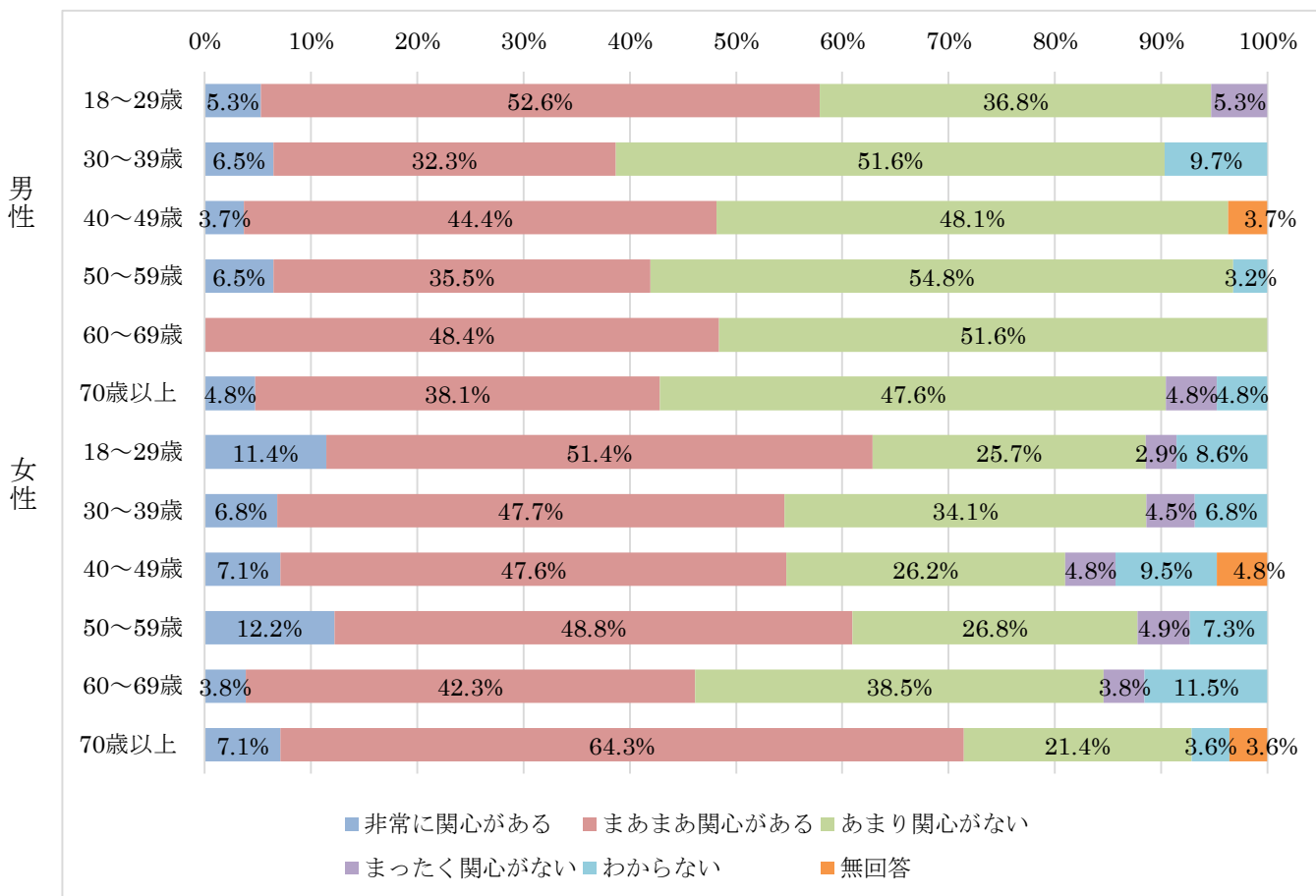
○性・年齢別で見ると、男女ともに 70 歳以上の「同感する」が最も高く、男性、女性ともに 14.3% となっている。

●男女平等や男女共同参画をテーマにする話題の関心度について

4割が関心がない



●男女平等や男女共同参画をテーマにする話題の関心度について（性・年齢別）



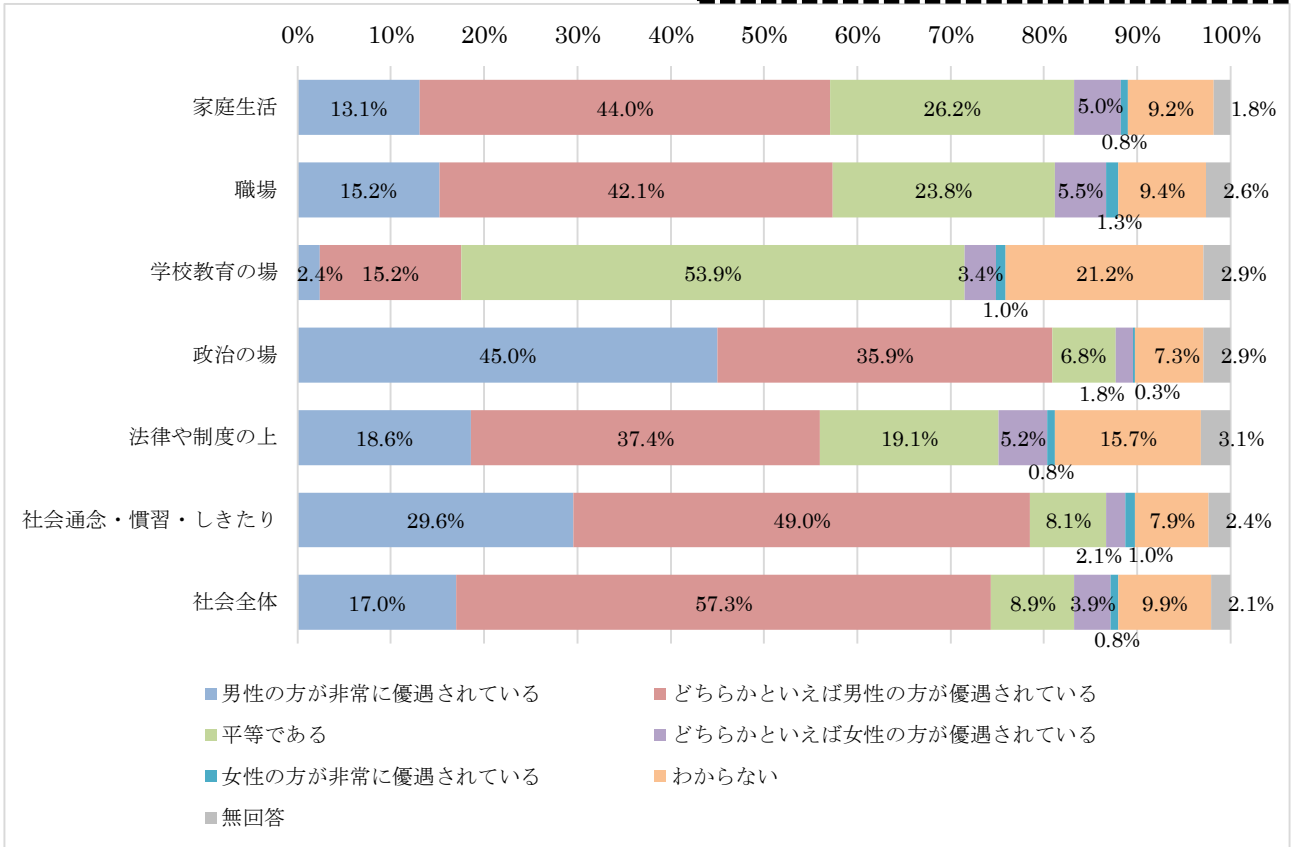
○全体では「非常に興味がある」が 6.8%、「まあまあ興味がある」が 46.3%となり、合計で 5 割を超えるが、前回より 3.8 ポイント低い。

○関心がある割合は 70 歳以上の女性が最も高く、30 代男性が最も低い。また、18～29 歳ではこの割合が高い。

○関心がない割合は男性の 30 代、50 代以上で 5 割を超えている。

●各分野における男女の地位の平等について

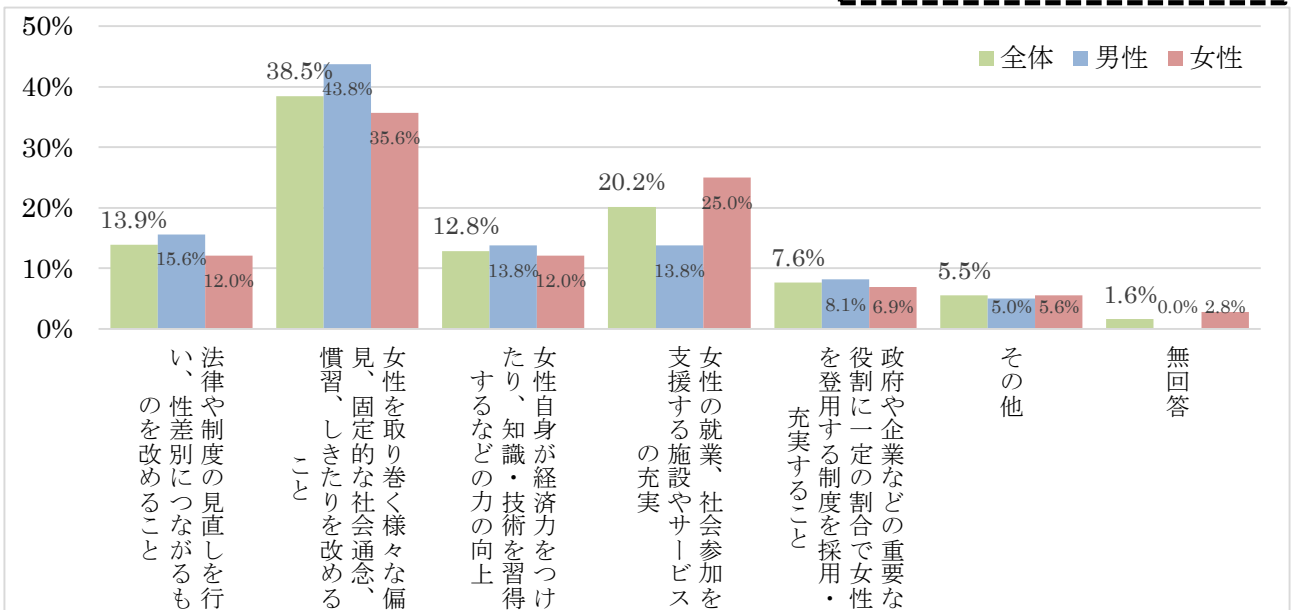
多くの場面で男性優位と感じている



- 「学校教育の場」以外は、いずれも「男性が優遇されている」の割合が5割を超えており、社会生活の多くの場面で男性が優遇されていると感じている。
- 「平等である」は、学校教育の場が53.9%と最も高い。

●もっと平等になるために最も重要なことについて

偏見、社会通念、慣習、しきたりを改めることが最も高い

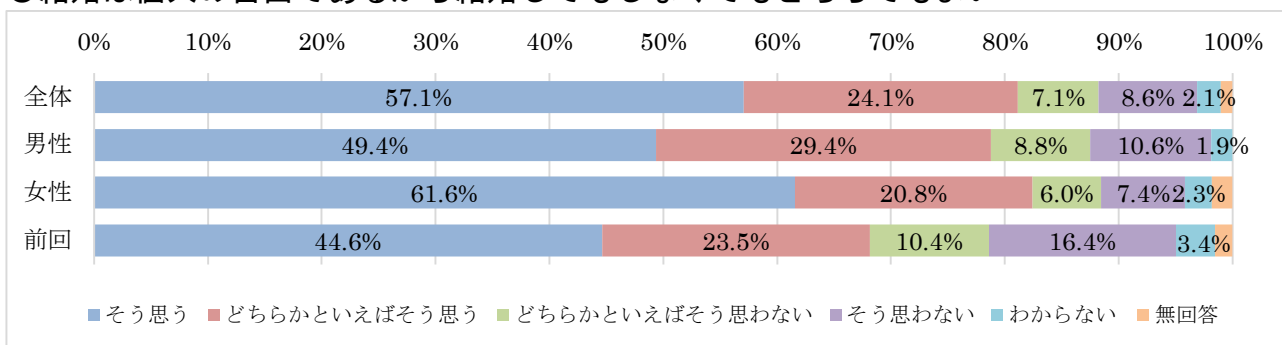


- 「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」が38.5%と最も高く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実」が高い。

2 結婚・家庭生活について

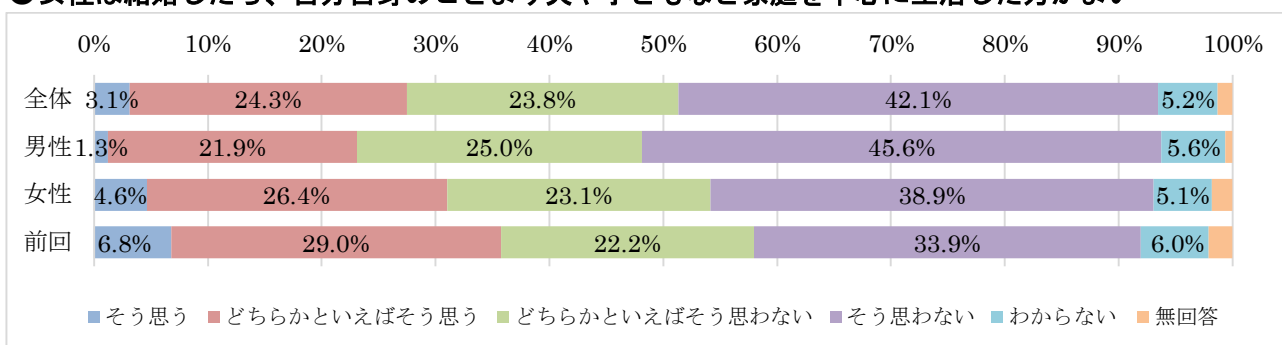
前回の結果と大きく変化

●結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい



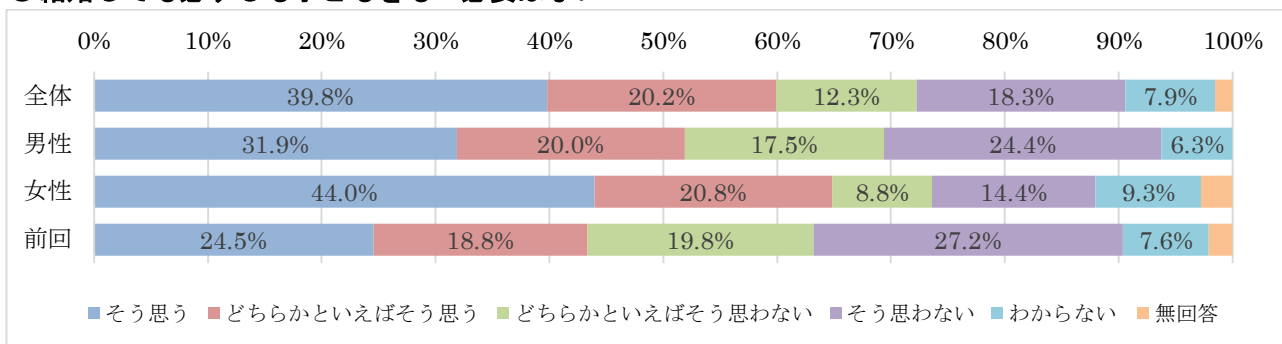
○「そう思う」の割合が前回より 12.5 ポイント高い。

●女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家庭を中心に生活した方がよい



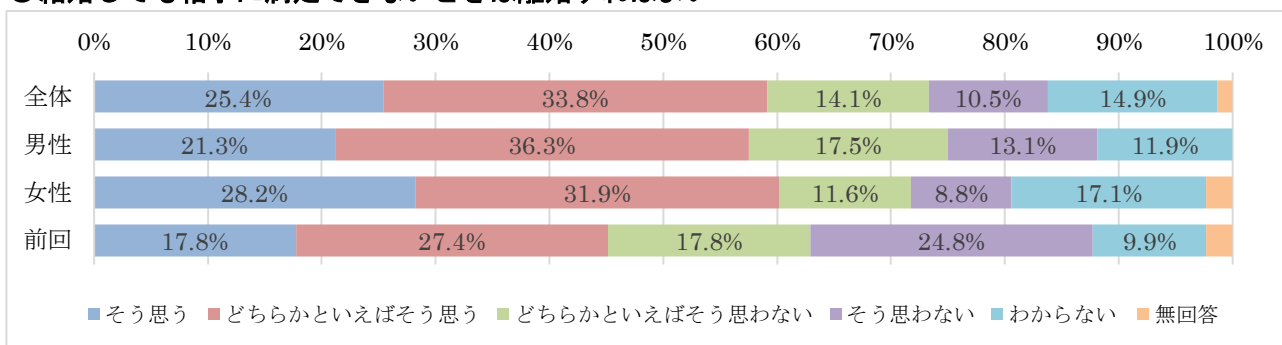
○「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が前回より 8.4 ポイント低い。

●結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない



○「そう思う」の割合が前回より 15.3 ポイント高い。

●結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

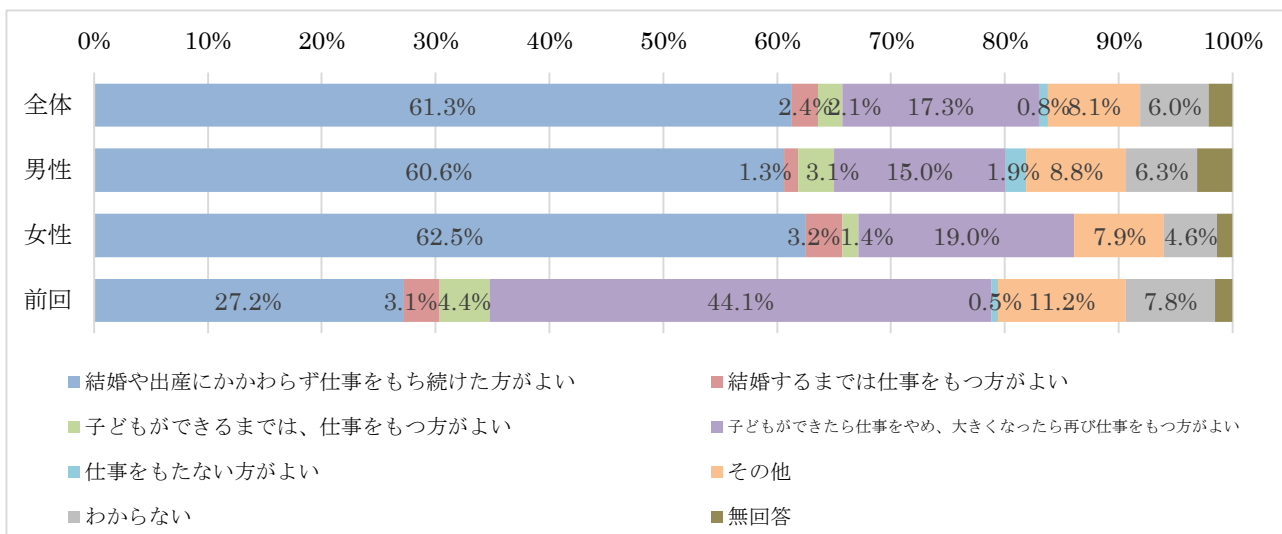


○「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が前回より 14 ポイント高い。

3 就業について

●女性の就業について

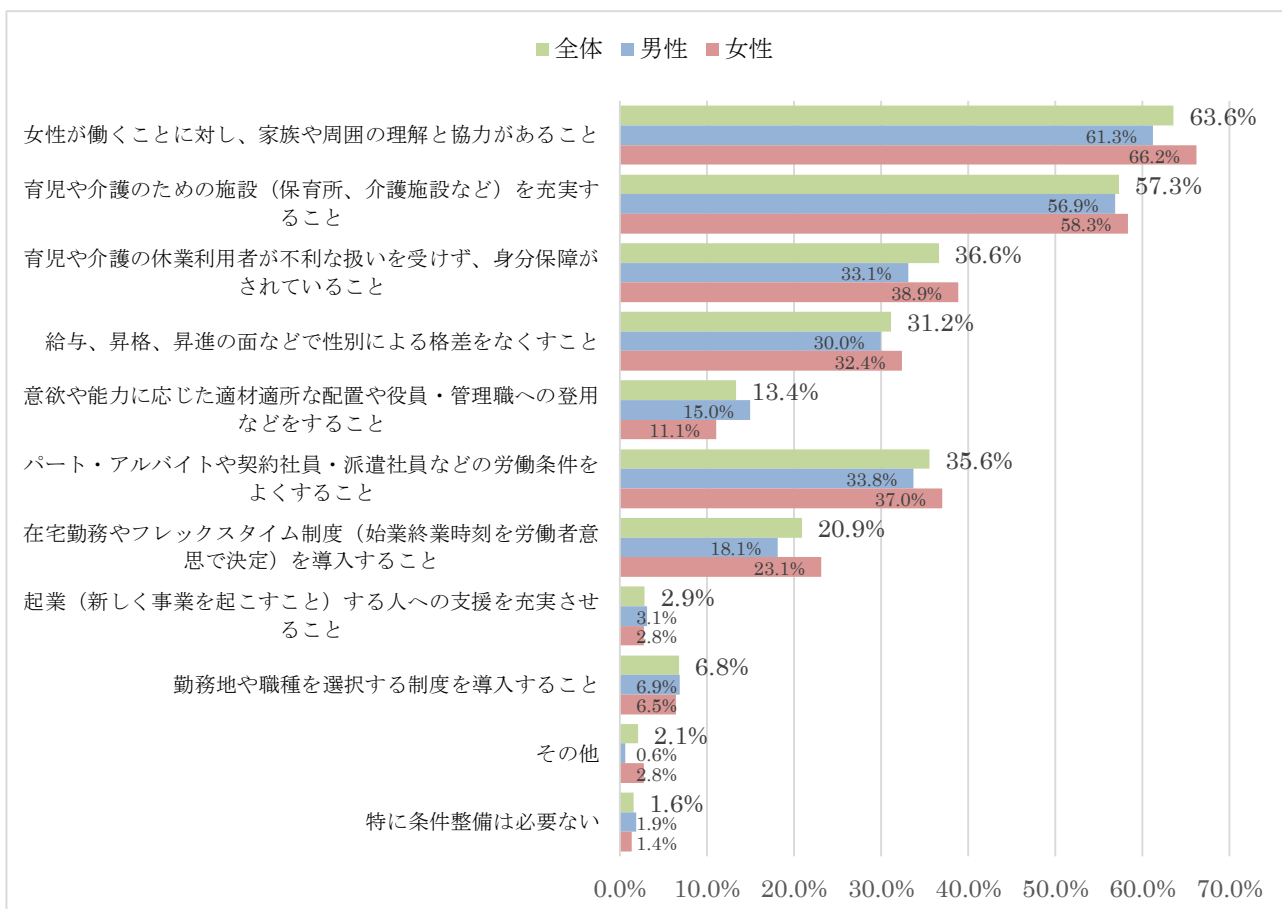
仕事をもち続けた方がよいが最も高い



○全体でみると「結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい」が61.3%で最も高く、前回より34.1ポイント高い。

●女性の就業のために必要なことについて

家族や周囲の理解と協力が6割以上

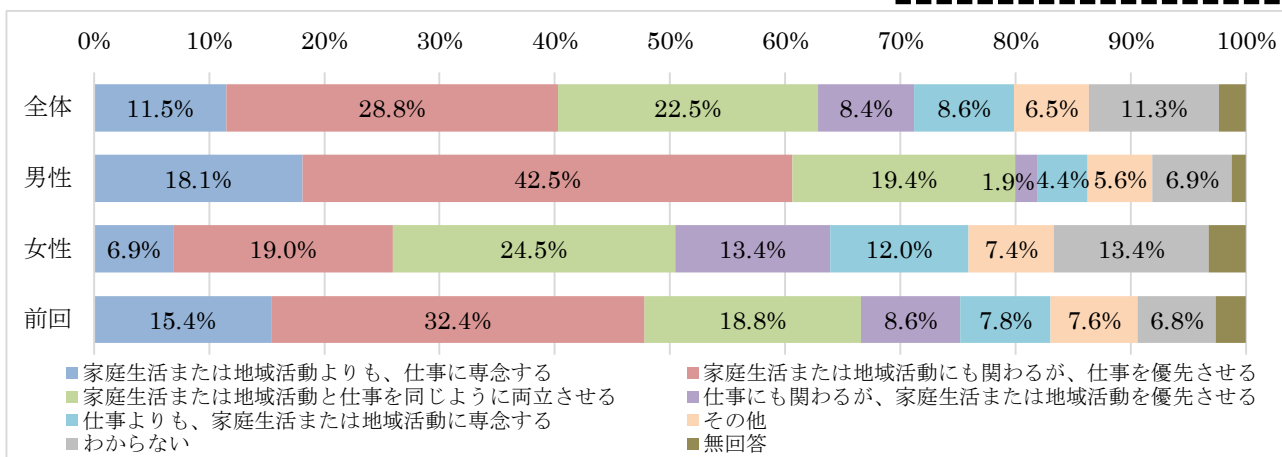


○全体でみると「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が63.6%で最も高く、次いで「育児や介護のための施設を充実すること」が57.3%となっている。

4 仕事と生活の調和について

●仕事と家庭生活、地域活動との関係について

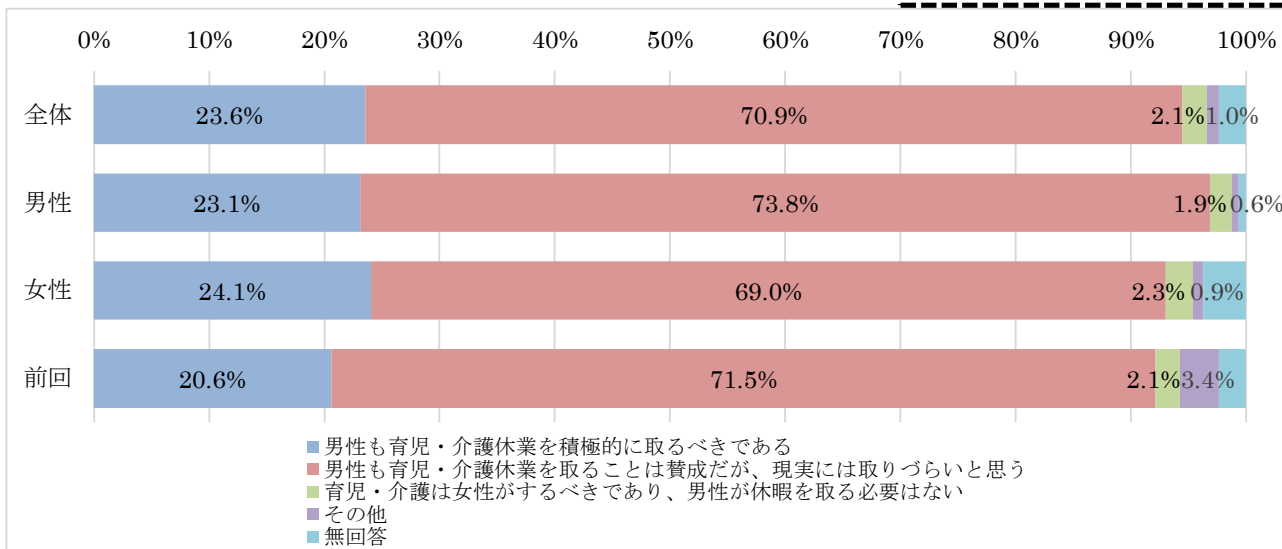
仕事を優先させるが最も高い



○全体でみると「家庭生活または地域活動にも関わるが、仕事を優先させる」が28.8%と最も高く、次いで「家庭生活または地域活動と同じように両立させる」が22.5%となっている。

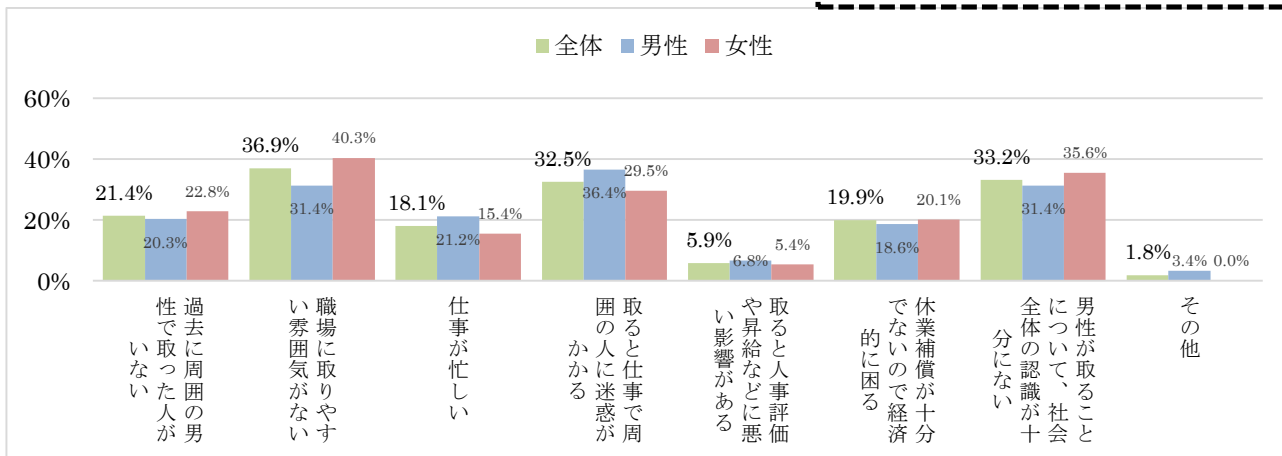
●男性の育児・介護休業の取得について

現実には取りづらいが約7割



●男性が育児・介護休業を取得しづらい理由

取りやすい雰囲気がないが最も高い



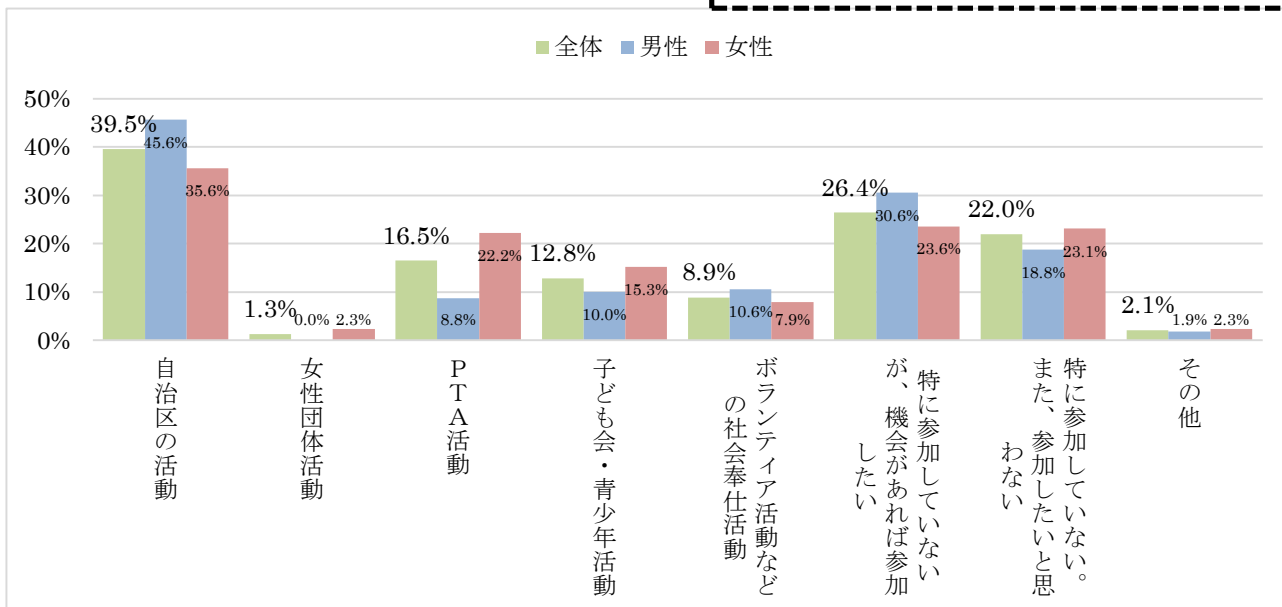
○全体をみると「職場に取りやすい雰囲気がない」が36.9%で最も高い。

○男性では「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかる」が36.4%で最も高い。

5 地域活動などの参加について

●どのような地域活動に参加しているか

自治区活動が4割、参加したくないは2割

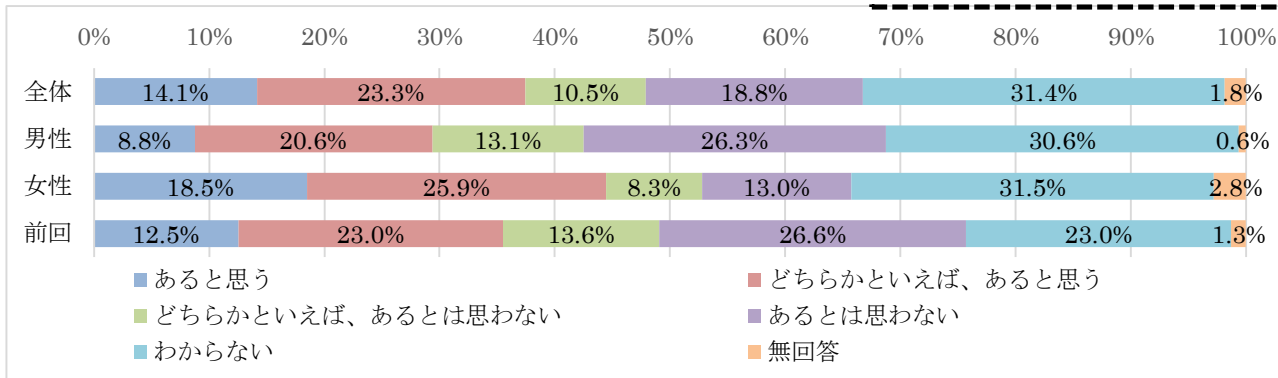


○全体では、「自治区の活動」が39.5%と最も高く、男性のほうが女性よりも10ポイント高い。

○「特に参加していないが、機会があれば参加したい」が全体で26.4%となっている。

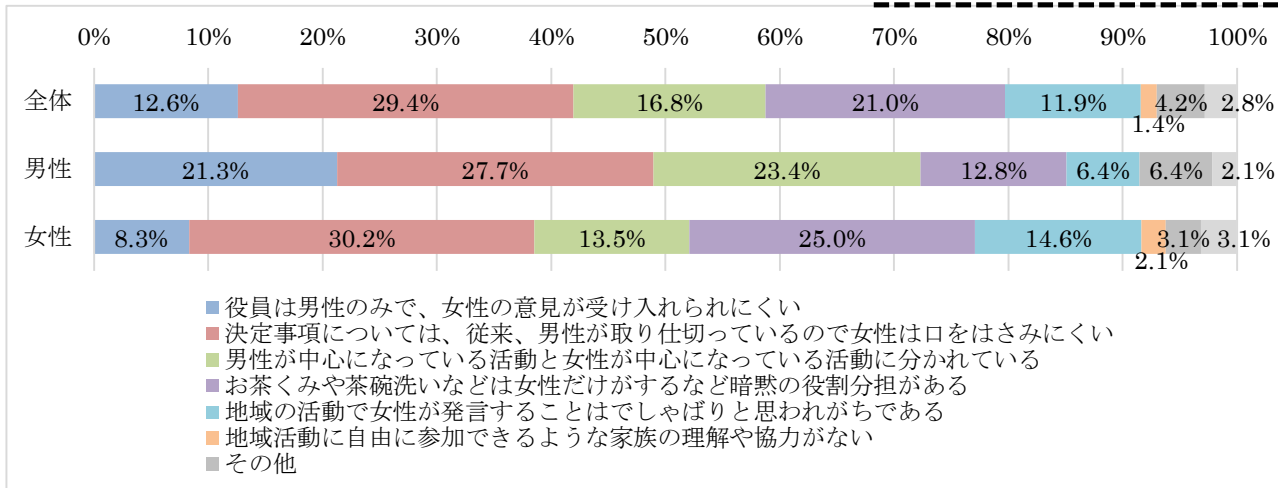
●女性が地域活動をしにくい状況について

しづらい雰囲気、状況が37%



●女性が地域活動をしにくい状況の理由

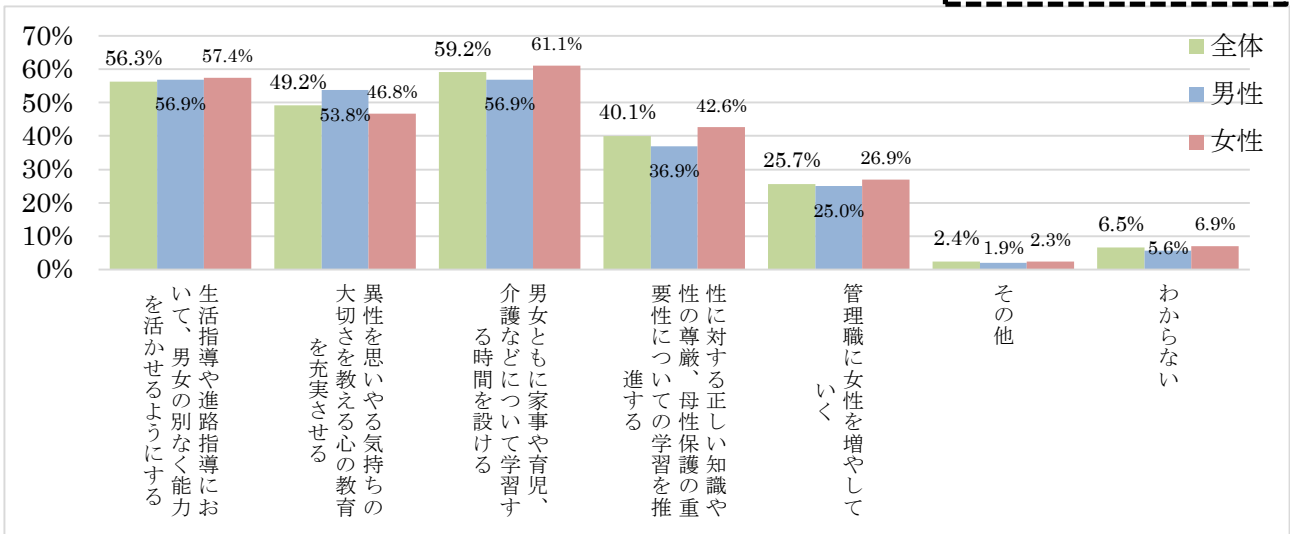
口をはさみにくいが最も高い



6 子育て・子どもの教育について

家事や育児等の学習時間を設けるが最も高い

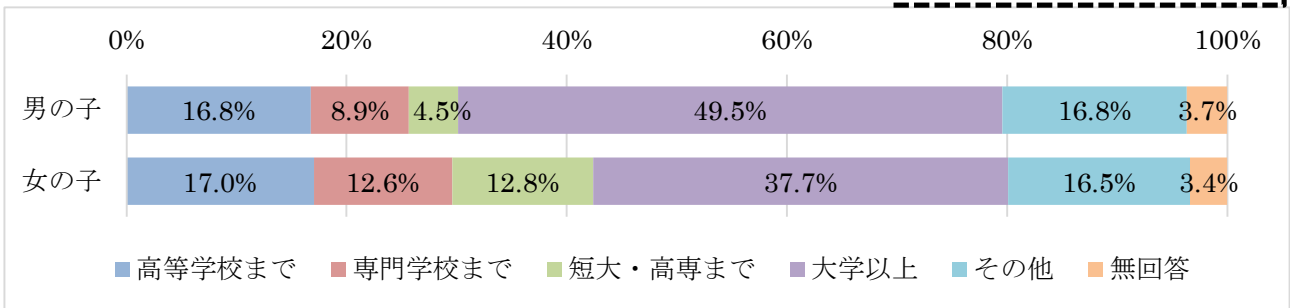
●男女平等の意識を育てるため学校教育で力を入れること



○「男女ともに家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」が59.2%で最も高い。

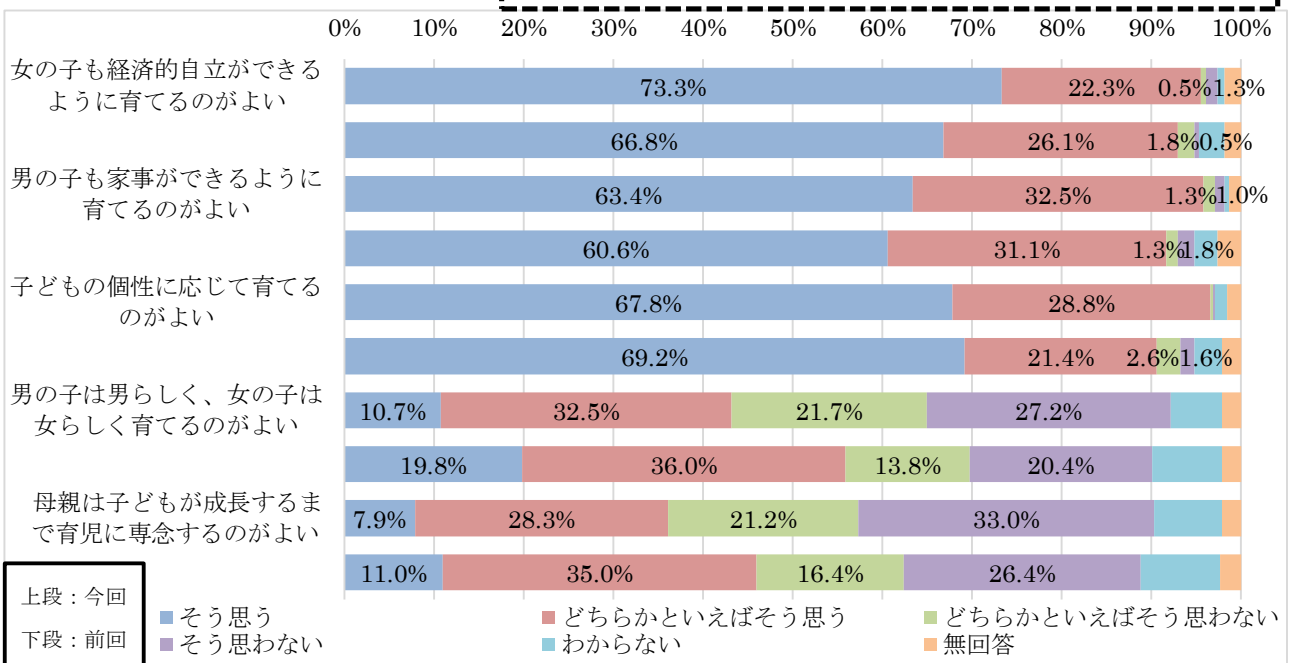
●子どもの学歴はどこまで必要か

男女とも大学以上が最も高い



●子どもの育て方について

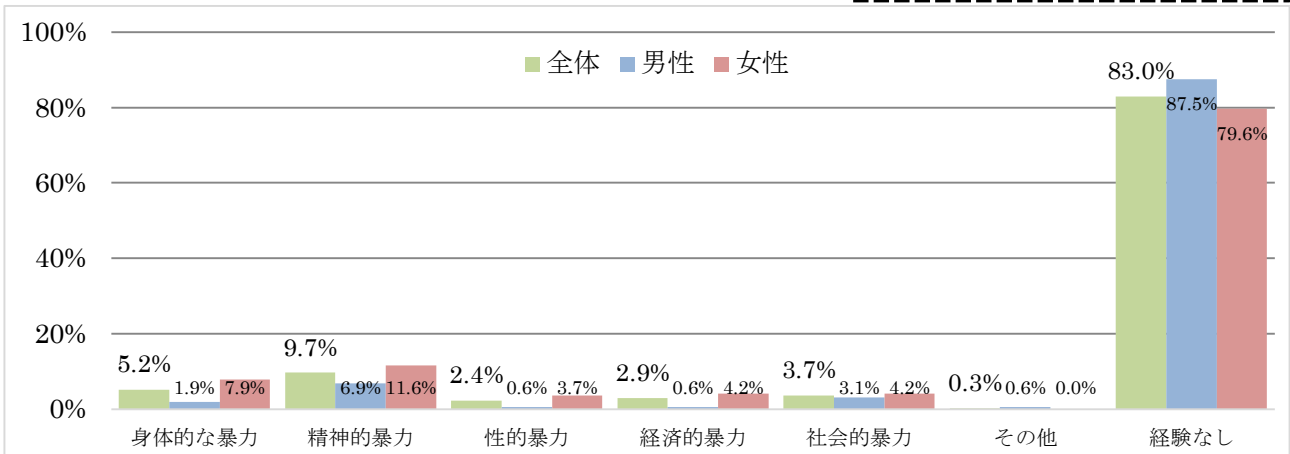
男らしく、女らしくという考えは前回より13ポイント低下



7 配偶者等からの暴力について

●配偶者等からの暴力の経験について

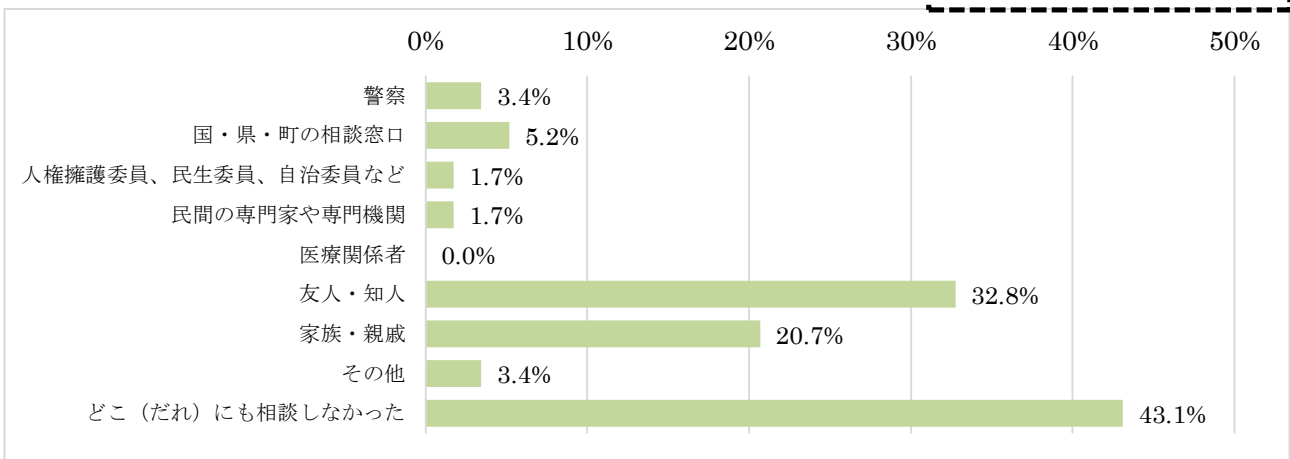
精神的暴力が9.7%で最も高い



○経験があると回答した人で、「長時間無視し続ける、ののしる、おどす、大声でどなるなどの精神的暴力」が9.7%と最も高く、次いで「殴る、蹴るなどの身体的暴力」が5.2%となっている。

●暴力を受けた経験がある人の相談先

相談しなかった人が約4割

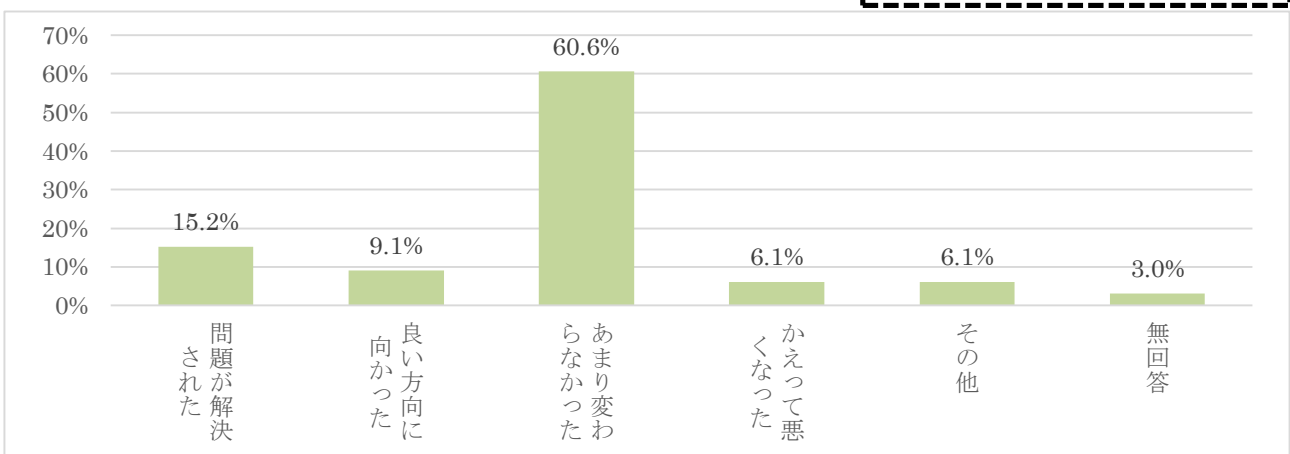


○暴力を受けた人の相談先は、「友人・知人」が32.8%と最も高く、次いで「家族・親戚」が20.7%となっている。

○「どこ（だれ）にも相談しなかった」は43.1%となっている。

●相談した結果、状況は怎么样了か

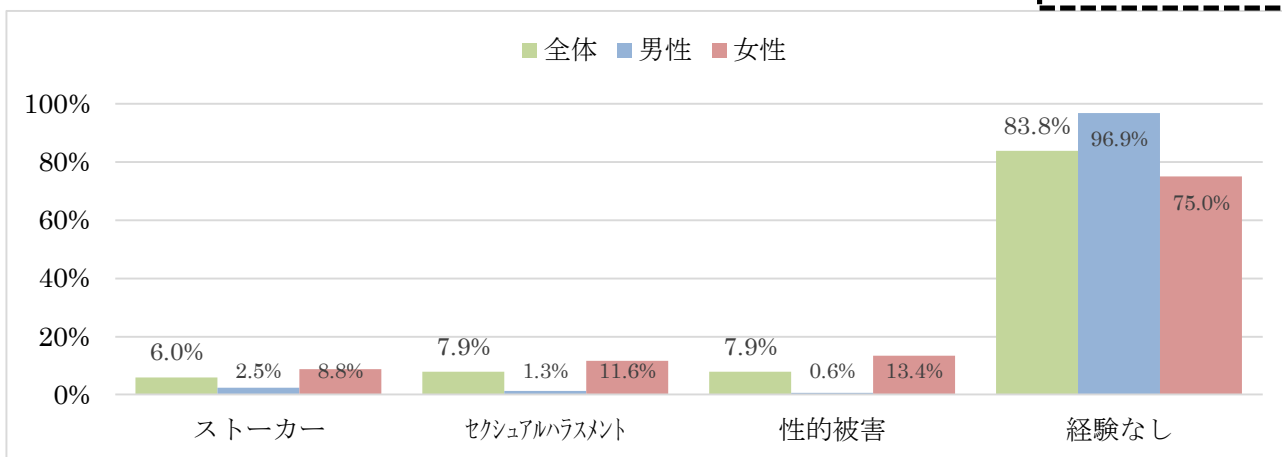
あまり変わらなかったが約6割



8 人権について

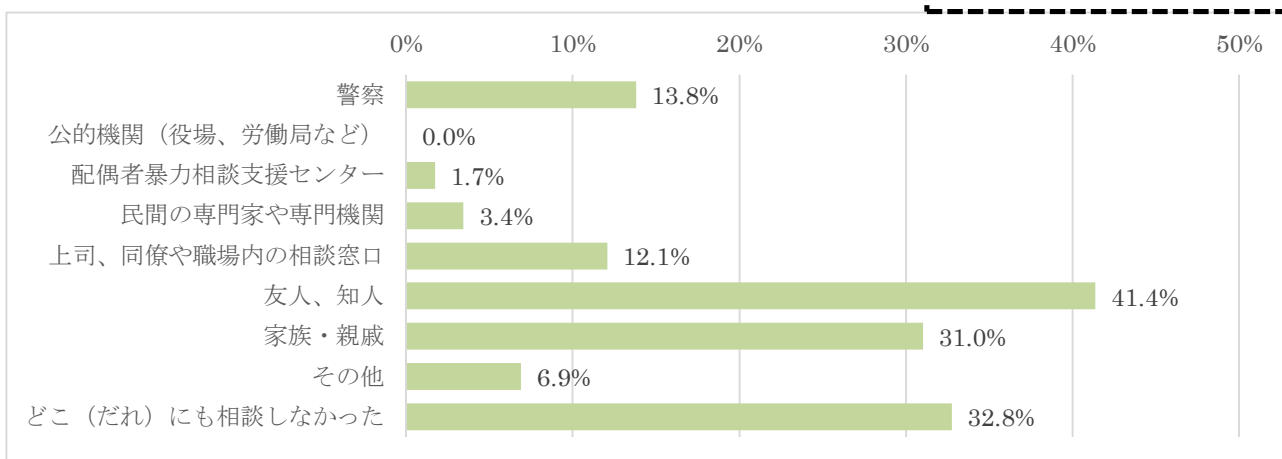
●ストーカー、セクハラ、性的被害の有無

被害の多くは女性



●ストーカー、セクハラ、性的被害を受けた人の相談先

相談しなかった人が約3割

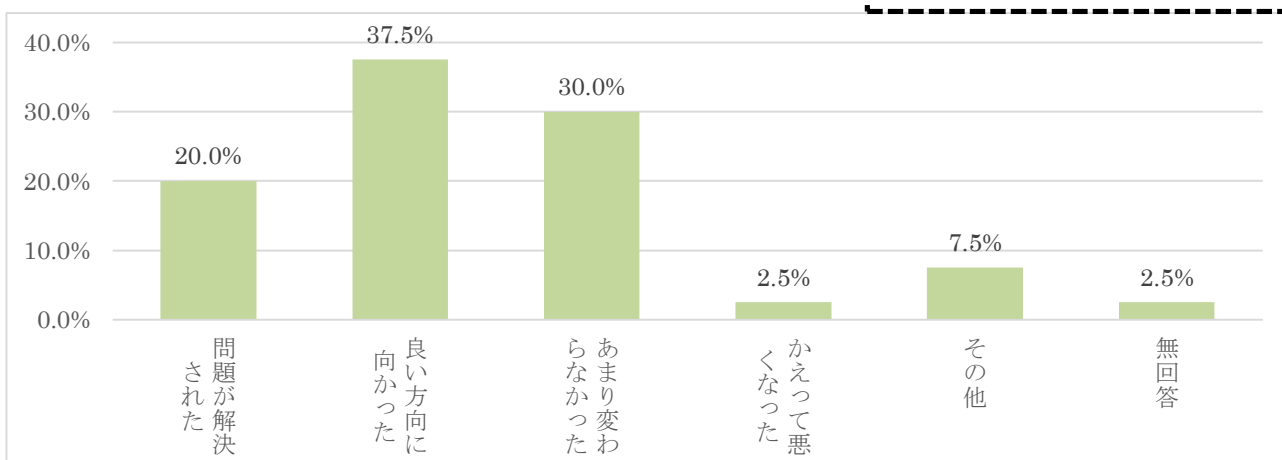


○被害を受けた人の相談先は、「友人・知人」が41.4%と最も高く、次いで「家族・親族」が31%となっている。

○「どこ（だれ）にも相談しなかった」は32.8%となっている。

●相談した結果どうなったか

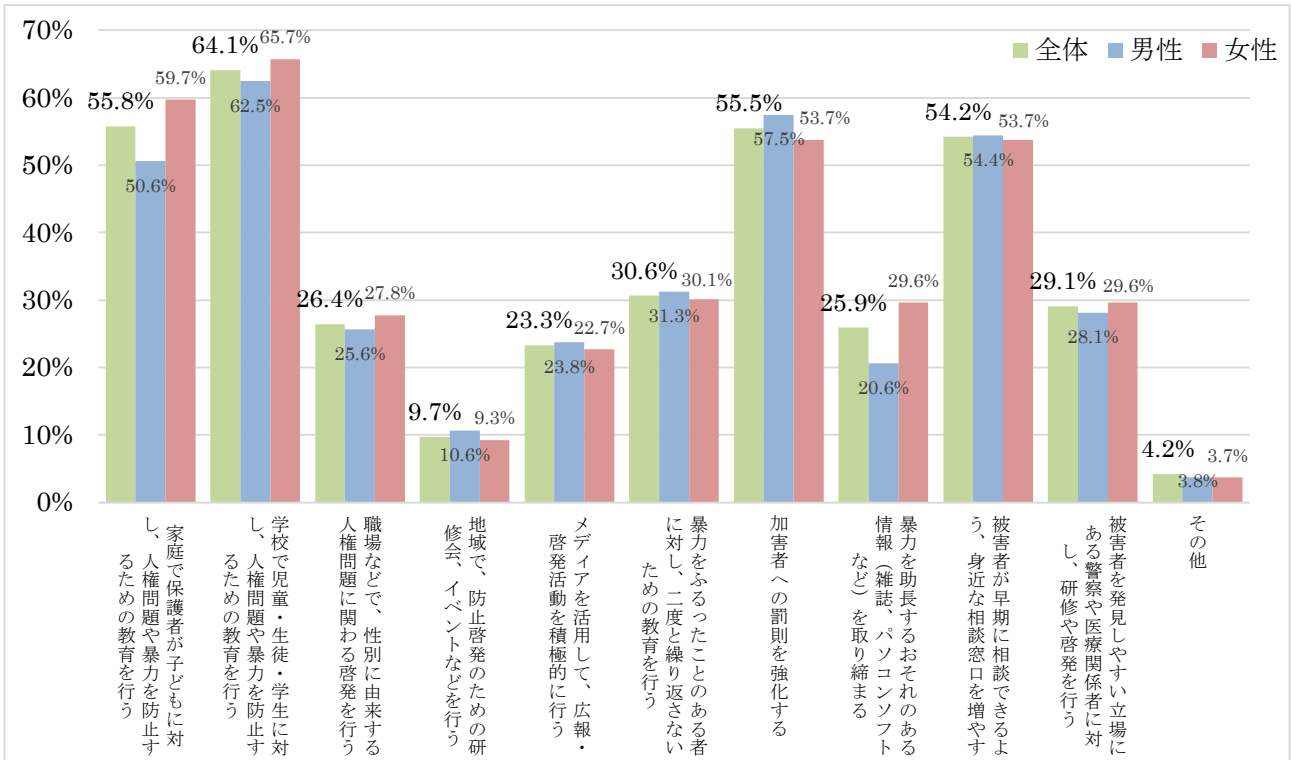
あまり変わらなかったが約4割



・相談をした結果、「あまり変わらなかった」の41%が最も高く、次いで「問題が解決された」が22%となっています。

●性犯罪やストーカー行為等の暴力をなくすために必要なこと

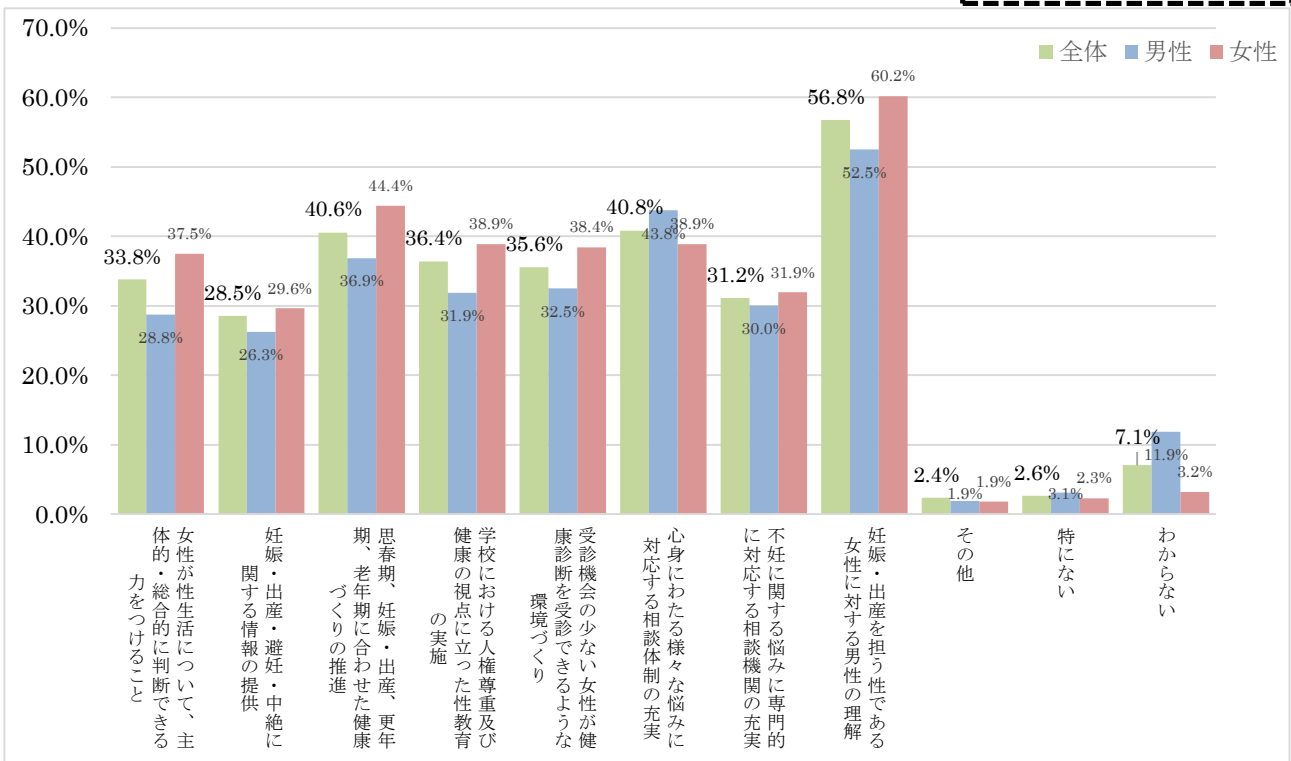
学校教育が最も高い



○全体で見ると、「学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や暴力を防止するための教育を行う」が64.1%と最も高く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、人権問題や暴力を防止するための教育を行う」が55.8%となっている。

●女性が生涯にわたり心身とも健康であるために大事なこと

男性の理解が最も高い

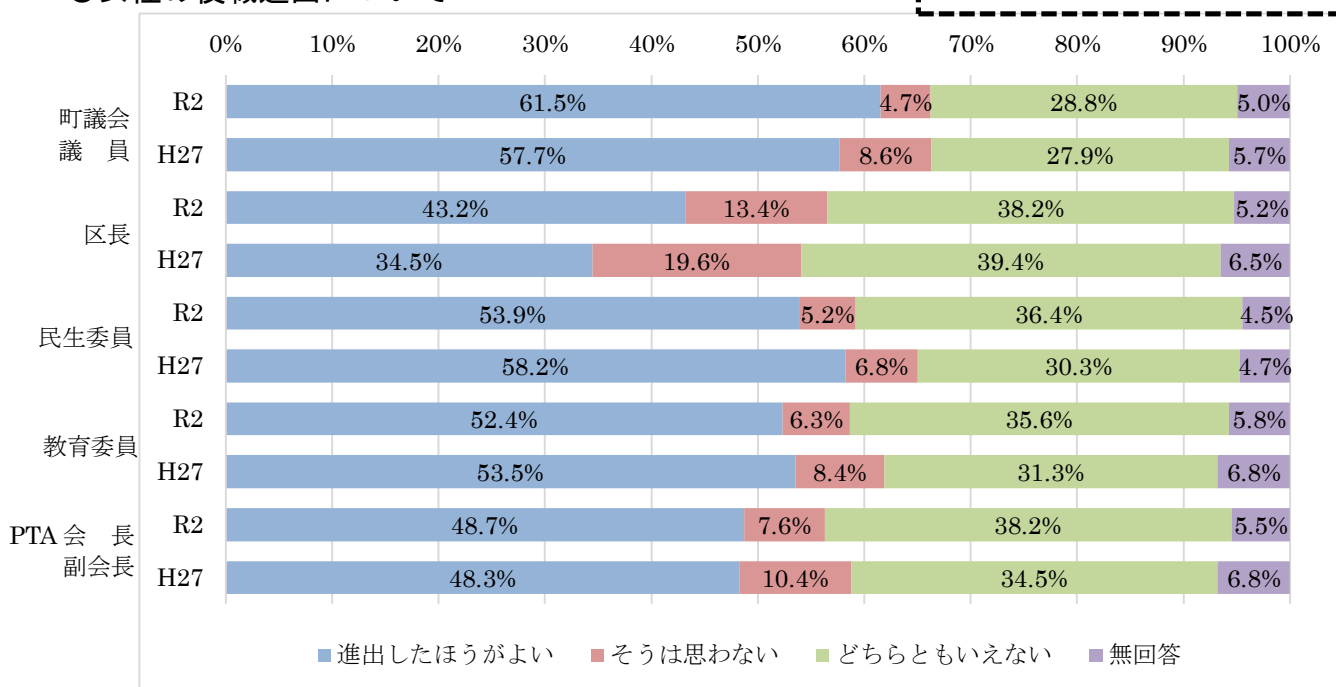


・全体で見ると、「妊娠・出産を担う性である女性に対する男性の理解」が56.8%と最も高く、次いで「心身にわたる様々な悩みに対応する相談機関の充実」が40.8%となっている。

9 女性の参画について

●女性の役職進出について

町議会議員が約6割で最も高い

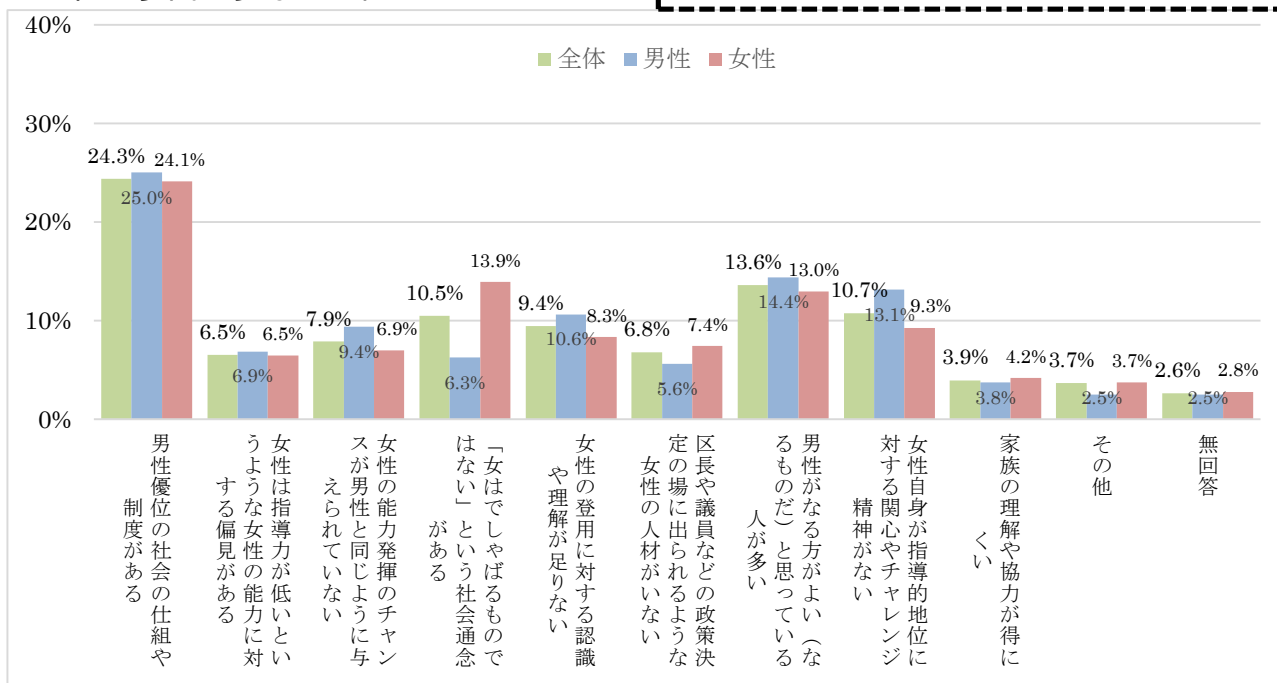


○町議会議員への女性の進出が61.5%で最も高くなっている。また、区長への進出は前回と比べて8.7ポイント上昇し、43.2%となっている。

○前回と比べ「そうは思わない」と回答した人がすべての役職で減少している。

●女性の参画が少ない理由

男性優位の社会の仕組みや制度があるが最も高い



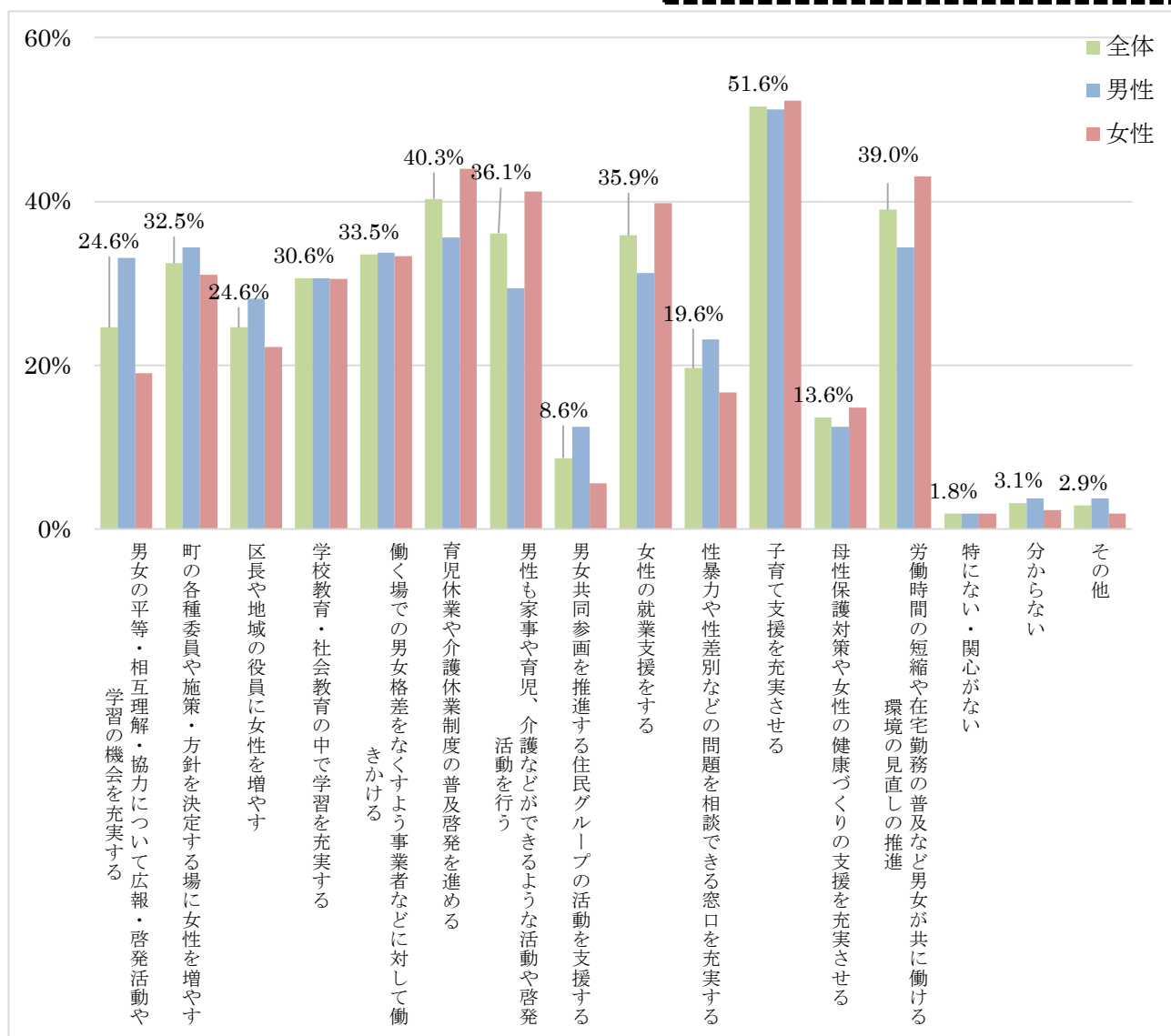
○全体で見ると、「男性優位の社会の仕組みや制度がある」が24.3%と最も高く、次いで「男性になる方がよい(なるものだ)と思っている人が多い」が13.6%となっている。

○男女の結果を比較すると、「女はでしゃばるものではないという社会通念がある」は女性が男性よりも7.6ポイント高い13.9%となっている。

10 男女共同参画施策への要望について

●日出町がどのようなことに力を入れればよいか

子育て支援を充実させるが全体の5割超



○全体で見ると、「子育て支援を充実させる」が 51.6%と最も高く、次いで「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」が 40.3%となっている。男女別でも同様の結果となっている。

1 1 町行政に対しての意見や要望について

寄せられた意見・要望等は、全部で73件あり、内容は男女共同参画、就労、子育て支援など多岐にわたっている。その中から意見、要望を抜粋し掲載する。

- (1) 男女共同参画について (29件)
- (2) 就労について (11件)
- (3) 子育て支援について (9件)
- (4) 町の男女共同参画施策について (9件)
- (5) 教育について (5件)
- (6) 女性の登用について (4件)
- (7) アンケートの実施に関して (3件)
- (8) その他 (3件)

(1) 男女共同参画について

- 女性と男性があらゆる分野で共同参画する社会の実現は、やはり人が生まれて最初の環境、家庭での生活にもとづくと思う。子どもは親見て育つといます。社会での環境を整えるのも必要ですが、今から生まれてくる子どもたち、これから日出町を盛り上げていくのも日出生まれの子どもたちだと思う。どのようにしたら良いかはわかりませんが、社会全体でこの子どもたちを育てていけたらと願います。
- お年寄りの人達が口を出してくる(男をたてろなど)ので、そういう人たちの意識を変えてほしい。家のことをしなくせに文句ばかり言う人たちばかりで行事がある度に嫌な気持ちになる。
- 女性が働くことなど色々な分野に参加することはとても良いことだとは思いますが、子どもを保育園にずっと預けっぱなし、休みもないようにするのは違うと思う。子ども支援は必要だが、基本は家庭と親であることを忘れてはいけないと思う。
- 行き過ぎた施策は必要ない。目的は「共同参画」であって、性差別やジェンダーの問題とある程度切り離して検討することが望ましい。(女性らしさ、男性らしさという事にフォーカスされすぎているように思う。)
- 男性にも女性にも長所と短所があると思うので適材適所だと思います。男性の方が得意な業種と女性の方が得意な業種があるのも現実だと思います。共同という言葉が平等と捉えずに施策できたら良いですね。応援してます。
- 全ての事に対して思いやりの心が必要だと思う。
- 各分野において実力のある若手に管理職になってもらう。良い風習は残し、差別的慣習は固定観念の無い若手に判断してもらった方がよい。新しいことを取り入れる勇気が必要。
- 個人的な意見として、無理に女性役員を増やす等ではなく、能力があるから、やってみたいからという女性がチャレンジしやすいよう支援してほしいです。

(2) 就労について

- 職場で子供の学校行事に父親が参加することを良く思われない。昔は母親が参加することが、あたりまえだったが今は夫婦で参加することが多くなっている。もう少し、職場に今の状況をわかってほしい。
- 古い考え方が多く、女性を軽視しているように感じる。特に職場。社長や上司がそのような考えで仕事に対しても軽視している。制度はあるが、すべて制度も作っただけで、全然伝わっていない。すべてに関して、作成し、発表したというだけで何も変わっていないと思う。

- 共働きには賛成だが、子供を預けて働くにも保育園の準備や送りむかえ等、母親の負担が増える。内職や在宅でできる仕事をもっとあればいいなと思う。
- 女性が働こうと思ったときに、子どもをまかせられる環境を整えてもらいたい。また「妊娠・出産・子育て」が終了したときにもとに戻れるような職場環境を、また子育てと両立できる職場環境を男女ともに整えてもらいたい。
- 子どもが幼いうちは、夫婦 2 人とも家庭・家族を第一優先にしたいが、経済的には難しいため、夫婦お互いが得意とするほうに注力している。育休中も就業中と同額の収入があればもっと子どもを持ちたいし、子育てにお金がかからない社会になれば（夫婦 2 人とも短時間勤務できれば）家庭優先できると思う。

(3) 子育て支援について

- 女性は特に育児との両立がネックになっているケースが多いと思われます。特に子供が小学生までの間に母親が仕事・家庭を両立できる仕組みがあるといいのでは。
- 出産にともなう保健士さんの訪問が嬉しかった。児童館も充実している。保育園（待機児童）の問題を改善してほしい。男性の仕事（育児に伴う時短など）の見直しをしてほしい。
- 子育てのママ・パパを支える、支援、サービスを充実させてほしい。
- 子育て支援や保育・医療の面でのサポートを手厚くして欲しい。そのような取り組みを積極的に行う自治体や市町村を参考に様々な案を取り入れ、発信してほしい。

(4) 町の男女共同参画施策について

- 今回の調査で、日出町が男女共同参画社会の形成を推進するための取り組みを行っていることを知り、これに対する関心を高める良い機会となりました。日出町のホームページ等でも見ることができ良いなと思う一方で、興味・関心がある人以外に届ける難しさというのも同時に感じました。また、日出町としての取り組みとなると、日出町に住みながら他の市町村で働いている人たちの職場への働きかけが難しくなるため、日出町に住む 1 人 1 人への働きかけや他の市町村、大分県全体での連携が不可欠であると思いました。この取り組みが、さらに進み、男女平等が当たり前の日出町になるといいなと思います。
- 家庭を持ち、仕事もしながら生活を豊かにする為には、色々なサポートが必要です。時間のある人にそれぞれの困り事をちょっとだけ手伝ってもらえる仕組み、増えるといいですね。若い世代に住みやすい日出町になってほしいので、若い世代の意見を取り入れて下さい。
- 高齢者が多い町なので、なかなか理解が得られないところもあるが、色々な制度を取り入れて町が見本となるようなことを進めて欲しい。
- 働きやすい日出町。子育てしやすい日出町。共同で参画する日出町となるよう具体的なビジョンが必要だと思います。

(5) 教育について

- 法律や体制づくりは整備されてきているものの、男女共に慣習や社会通念に左右されていることが多く（特に年配の男性は男優位の考えや行動が目立つ）、啓発や教育などで意識の改革が必要で社会全体が変わっていくことが大事だと思う。
- 社会制度や支援制度の改善・充実はもちろんですが、女性が発言したり、女性上司から指導されても機嫌を損ねないような男性を育成するような教育の推進も必要です。男性から注意されれば聞くのに、女性から注意されるとへそを曲げる男の何と多いこと。
- 働き方改革により女性の就労（出産、育児）に関しては、少しずつ改善されているが、家庭内ではまだまだ。中高年世代より、児童・生徒を教育していくことに力を入れる方が良いと思う。

(6) 女性の登用について

- 町行政に関わる管理職の男女比率を発表する機会を増やす。まずは行政がお手本を。
- 行政関係の役職等に女性枠を設けることにより積極的な推進をする。
- 職場、地域社会での女性の登用促進などの広報、義務化をするなど具体的な女性登用する目標を立て、住民に意識付けをしてはどうか。

(7) アンケートの実施に関して

- 質問が多すぎて良く分からない。この結果は何かに表示されるのでしょうか。
- アンケートの質問項目が多すぎる。質問内容はいまいちで精査した方がよいと感じる。